



2022年10月7日

2022年度 グッドデザイン賞 「hocco」がグッドデザイン・ベスト 100 および グッドフォーカス賞 [地域社会デザイン] を受賞

小田急バス株式会社（本社：東京都調布市 社長：早川 弘之）が2021年10月に開業した武蔵野市桜堤の複合施設「hocco（ホッコ）」は、2022年10月7日（金）に、2022年度グッドデザイン賞において「グッドデザイン・ベスト100」と「グッドフォーカス賞 [地域社会デザイン]」を受賞しました（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）。



「グッドデザイン・ベスト100」と「グッドフォーカス賞 [地域社会デザイン]」への選出にあたっては、バスターミナルを地域交流拠点としたことや、「なりわい」が地域の人々の新たな交流を生む場となっていること、地域で孤立していた高齢者が若い世代と触れ合うこともできること等を評価いただきました。



「おてせいなりわい市」の様子（2022年4月撮影）

hocco では、シェアカーやシェアサイクルといった「モビリティハブ」の拠点整備を行ったほか、まちに開かれた「なりわい」を中心とした地域の「コミュニティハブ」の機能を設け、地域の方々により気軽に、ご利用いただきやすい環境の実現を目指してまいりました。

2022年桜の開花時期にあわせて実施したイベント「おてせいなりわい市」では、1,000人を超える皆様にご来場いただき、住民の方や地域にお住まいの方々の交流拠点として、地域の賑わい創出に貢献しました。今後は住民の方が主体となった催しも予定しております。

当社では、今後も地域の魅力を活かした新たなまちづくりに取り組み、地域との関係性を継続的に育んでまいります。

「グッドデザイン・ベスト100」とは、その年のグッドデザイン賞受賞対象のうち審査委員会から特に高い評価を得た100件です。

「グッドフォーカス賞[地域社会デザイン]」とは、地域社会の持続的発展や経済の活性化に特に寄与するデザインに贈られる賞のことです。

<審査委員からの評価コメント>

住宅地の真ん中にあるバスターミナルを地域交流拠点として開発した新しい取り組みが高く評価された。これまで都市近郊部の開発は駅前中心の画一的な開発が主であったが、駅から離れた立地のバスターミナルに店舗併用の賃貸住宅を建てることで、住む人の「なりわい」が地域の人々の新しい交流を生む魅力的な場となっている。中庭に面して店舗が並び、店舗は土間と軒先の空間を通じて中庭へと繋がる。軒下があることで人は気持ちよくお店の前で佇み、住む人とその「なりわい」に出会うことができる。個性あふれる「なりわい」が魅力となり、地域の人が自然に集まれる場ができている。ここでは地域で孤立していた高齢者が若い世代と触れ合うこともできる。全国にあるバスターミナルの今後の開発の見本となり得る好事例である。

なお、hocco の概要については下記のとおりです。

記



1 施設名	hocco (ホッコ)
2 コンセプト	暮らしの「町あい所」 “ナリワイ”が育む、“顔が見える”小さなコミュニケーション
3 場所	東京都武蔵野市桜堤2丁目6番19
4 アクセス	JR中央線「武蔵境」駅バス乗車12分 終点 桜堤上水端「hocco」下車 JR中央線「東小金井」駅徒歩15分
5 物件概要	敷地面積 1,525.42㎡(461.43坪) 建物構造 木造2階建(長屋建て) 建物面積 811.71㎡(245.54坪) ※シェアカー(1台)、シェアサイクルラック(5台分)配置
6 事業主体	小田急バス株式会社
7 企画・設計監理	株式会社ブルースタジオ
8 施工	ジェクト株式会社
9 ホームページ	小田急バス株式会社 https://www.odakyubus.co.jp/hocco/

以上